

三月に

……………卒園する子どもたちへ……………

蕪木寿江

あした

泣きたくなったら 急いで おへそに

力を入れるのよ

すると涙が すーっと

ひっこんでしまうのよ

忘れ物したなんて ママのせいにして

泣くんじゃあないのよ

泣くとぼーっとなって

そばにいるお友だちも

裏の山の梅の花も

もうすぐくるつばめも

かすんでみえないわよ

「いいこと……………」

ぼくの大粒の涙を みんな幼稚園の
お庭の隅に埋めて
あした卒園しなさい

きつと

わたしが 外を見ていたら
一人 二人 がそばにきて
窓の外を見ていたの
三人 四人 と見ていたら
みんなが走って寄ってきて
窓から外を見ていたわ
二羽の白鷺あとさきに

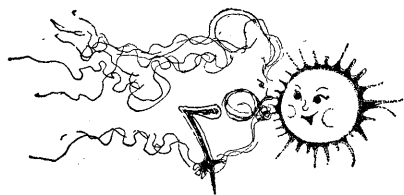
はばたく音が聞こえそう

空の色のいぬふぐり

わたしががんでみていたら
みんなもがんで声かけた

北斗七星見ていたら

みんなもあの星見るだろか
指さす先を見るだろう



そうよね

「おひなさまの小さなケーキも

二人でわけると二倍おいしくなるのよ」

「じゃあ、三人でわけると

三倍おいしくなるの？」

「じゃあ、四人でわけると

四倍おいしくなるの？」

「そうよ」

「じゃあ、十人でわけると十倍？」

「そうよ……そうよね……」

春の雨が地面に浸みこむように

一つ一つのことばが

心の中にとどいていくのね

「百人でわけると百倍おいしくなるんだよね」

「ありがとう、せんせいたくさんのこと

みんなから教えてもらったみたい」

ころです

目の中に

光っているもの　なんでしょう

春のお空の　白い雲

ぽっかり浮かんだ　白い雲

目の中に

光っているもの　なんでしょう

夜空に　匂う　梅の花

開きはじめた　梅の花

目の中に

光っているものなんでしょう

友だちくれた　びーず玉

七いろ　八いろ　の　びーず玉

目の中に

光っているものなんでしょう

みんなが 持ってる ところです

やさしい やさしい ところです

「うれしいひ」のえほんをよんで

「ほくの、うれしいひ って知ってる？」

「しらない」

「あのね、おかあさんにほめられたひ」

「あたしの、うれしいひ って知ってる？」

「しらない」

「あのね、まごちゃんと あそんだひ」

じてんしゃのほじょぐるまがとれたひ

おとうさんとおすもうしたひ

けんちゃんのおたんじょうびにいったひ

うさぎのあかちゃんをみたひ

おばあちゃんのかたをたいたひ

あやとりができるようになったひ

いもうととおるすばんしたひ

うれしいひが いっぱい くるといい

いっぱいしたあとから また うれしいひが

やってくる

(神奈川県 市が尾幼稚園)